

八月号は、例年、幼児教育の枠からはみでた広い視野からの記事をとりにれるように心がけている。これはなにも八月号にかぎったことではないが、幼児教育は人間そのものをあつかうものであるから、人間および世界の理解とひろくかわるからである。その理解はかならずしも知識の上の理解ということではない。人間の目に見えない部分、こころの理解であり、永遠の中における世界の理解である。人間の科学は、表明にあらわれた行動面の解明にとどまらず、人間が人間となることのできる人間らしきの部分にまでひろがらなければならぬであらう。幼児教育、幼児保育は、まさに人間そのものを育ててゆくことを課題とするものなのである。

も、夏の休みの賢明な使い方ではあるまい。むしろ幅ひろい読書によって教養を得ることがたいせつであろう。なにもしないで、しかもゆたかな気分でいられるなら、もっとよいかもされない。保育者にとつては、夏の休みは一年間の英気を養うときであり、人からは休みのようにみえて、休みではないのである。人の心を養うことにたずさわる者にとつては、このような時期がなければ、その責任を果たすことができないであろうと思う。あくせくした、せせこましく型にはまった考えは、子どもの心をも小さく狭くしてしまふ。自然の中に、また、音楽、絵、読書、社会奉仕など、それぞれに応じて、自らの心をひろげる機会としてこそ、夏の休みは子どもたちのために使われるものとなるであらう。くれぐれも、たいせつな精力を浪費して疲れすぎないようにしよう。ありあまるほどの力をたくわえて九月の新学期を迎えたい。

## 幼児の教育 第六十八巻 第八号

八月号 © 定価八〇円

昭和四十四年七月二十五日 印刷  
昭和四十四年八月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内  
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一  
印刷所 凸版印刷株式会社  
101 東京都千代田区神田小川町三ノ一  
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所  
所 フレーベル館 にお願いたします